

「おまじ」 新して、平成15年4月10月には、月から平成15年3月まで第6代会長を務められたのは、美素建物管理株式会社の北川幸氏。続いて、平成15年4月からは、ネットワーキングを利した広報活動が本格化したのが北川氏の会長時代でした。

見つかるとまで何回も繰り返さなくてはならないと、真の古い諺だ。信頼を築くのは並大抵の努力ではないが、崩れるのは一瞬だ。だから顧客満足の中でも事故は起こしてならない。

が、事故防止は経済的にも、顧客満足要である。経済的にこすと儲け損いをすいどころか、場合に業存続の危機ともなる。あるビルメンの社は、今年これを半分にとどめたい」と言われは、これはおかしい。これには無理だ。社長の正直な気持ち、あくまでも災害は考えなければならぬ。その誰を想定したのか。考えてはいけない。

事故を起こすと顧客は、安全、安心を届ける。ビルメンは信頼なく努力の記録だ」という言葉。次回からは「ビルメンのブランド化」についてのべる。(文責・松本慶蔵)

「ト」を開設、新刊書も含めて多くの資料が閲覧可能なこのフロアは、連日多くの会員に利用されています。

一般社団法人としてスタート

続いて、平成21年10月1日、当協会は一般社団法人としてスタート。平成23年4月からは、第8代会長を務めたのは、株主のケンテクノの梶山吉孝氏。



第9代会長 山田吉孝氏

こころを振り返り、歴史を振り返り、時代の変遷に的確に対応し、現在の発展に導かれたことがわかりました。ここに改めて、心から深く感謝の意を表します。

全国ビルメンナンス協会実施の実態調査において、「経営での悩み事への回答として、価格低価格化の次に、「作業管理者が育ちにくい」、「若返りがはかりにくい」、等を多くの企業が挙げており、若手管理者の育成は業界全体として喫緊の課題です。将来の会社幹部も視野に入れつつ、有能な若手を現場の総合力としてプロデュースして

か、こころを振り返り、歴史を振り返り、先輩の方のこれまでの懸命な活動があったからです。今を生きて私たちに、その努力を継承することはもとより、時代に応じた創意工夫を重ねることで更に斯業を発展させ、未来を担う人たちに、いく義務があります。その思いをストレートに表現したのが今回のテーマで、協会に携わ

わ、声援をたい、こころを振り返り、先輩の方のこれまでの懸命な活動があったからです。今を生きて私たちに、その努力を継承することはもとより、時代に応じた創意工夫を重ねることで更に斯業を発展させ、未来を担う人たちに、いく義務があります。その思いをストレートに表現したのが今回のテーマで、協会に携わ

管理員の資質向上へ

マンション管理員検定協会がセミナー

(一社)マンション管理員検定協会(日下部理絵理事長)は5月22日都内で、現役のマニシオン管理員、管理会社、これから管理員を目指す人を対象にセミナー「マンション管理員フェア in 東京」を開催、会場には約70人が参加した。

はマンション管理業界の実状と管理員の重要性について語った。日下部氏はマニシオン管理で大切なポイントとして

- ①管理業務の窓口である「管理員」や「フロント担当者」の対応
- ②緊急時の対応
- ③日常清掃を含む清掃状況

の3点を挙げて「マニシオン管理は究極の人材・顧客サービスであり、特にフロント担当者や管理員の「資質向上」は、マニシオン管理の「質」そのものを向上することにつながる」と語り、管理員は管理会社の顔であるだけでなく、地域や近隣から見ればマニシオンの顔にあたる

て、管理員の資質向上を求めた。2部では、管理会社、管理員、管理会社をサポートする企業担当者によるパネルディスカッションを行ったほか、会場では管理員向けに書籍を販売する



マンション管理員セミナー。円内は講演する日下部理事長



ブースがあり、本紙も出展し「マンション管理員ハンドブック」などを販売、PRした。